

東光寺だより

9月23日 秋彼岸お中日

彼岸とは、ご存知のようにお釈迦様のお教えに説かれています。私たちは苦しみの世界（此の岸）から安らぎの世界（彼岸）へ渡らなければならないのです。私たちの今生きる悩み多きこの世を此岸（しがん）、そして目指すべき悟りの境地を彼岸と呼んでいるのです。

彼岸法要は日本で仏教行事として始まったのです。彼岸の頃は太陽が真東からのぼり、真西に沈みますので西に沈む夕日をみながら、はるか西方浄土にいるであろうご先祖様に感謝するのにふさわしい日なのです。



また夜昼の時間が等しくなるように太陽が動くことを、お釈迦様が説かれた「中道」（偏らず、とらわれない）とも結びつけられます。

仏教徒としてのお彼岸の過ごし方

「六波羅蜜」の修行 心に充電をする一週間

六つの努力目標

- 布施** おかげさまの心で、自分にとって大切なものを惜しみなく分かちあう実践。
- 持戒** 仏教徒としての決まり（五戒）を守るよう努力する実践。
- 忍辱** （にんにく）苦難を受け止め、辛抱容認し 怒りの心を起こさない実践。
- 精進** 自分をはげまし、なにごとにも切磋努力する実践
- 禅定** どのような場面に遭遇しても心の静けさを保つ実践。
- 智恵** なにものにもとらわれない心に安らぎがあると気づきます。

参考 「妙心寺発行臨済宗の仏事」

私たちは日頃、日常雑事に追われ本来の仏教徒としての生活からかけはなれた日々を送っています。

- 「そうだ お寺へ行ってみよう」
- 「そうだ 座禅・心経写経をやってみよう」
- 「そうだ ご先祖のお墓参りに行こう」
- 「そうだ ボランティア活動に参加してみよう」等

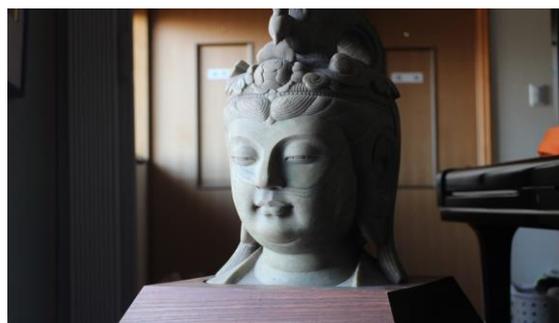
年に二回のお彼岸を心に充電をする機会と心得て精進してみても如何でしょう。

仏教は見方革命です

最近きいた川柳？です。

「渋滞がうれしい彼女送る道」
高速道路で渋滞にあえば誰しもうんざりします。我々には渋滞は悪の権化という固定観念がありますね。しかし渋滞に巻き込まれた人が皆同様な思いでしょうか。重大な案件を控えた営業マンには地獄に等しいです。たいていの方はイライラ・・・しかし、中には外の景色をゆっくり眺めている人もいるかもしれません。・・・渋滞という事実にはわかりませんがこちらの受け取り方で全く違ったものになるのです。この川柳の作者にとっては渋滞が永久に続くことを願って居るかもしれません。

「私が変われば世界が変わる」同じものを見ても人それぞれです。渋滞には実態がないのです。こちらの見方次第です。これが般若心経に説かれている「空（くう）」の世界です。私たちは物事にとらわれて悩んでいるのです。チョット見方を変えてみましょう。ちがった世界を見ることが出来るのです。



令和4年9月1日

東光寺 住職 鷺見邦隆